

日本高齢期運動連絡会ニュース

発行責任者 藤谷 恵三 発行所 日本高齢期運動連絡会
〒164-0011 東京都中野区中央5-48-5 シャンポール中野504号
Tel/fax03-3384-6654 E-Mail nihonkouren@nifty.com
http://www.nihonkouren.jp

発行：隔月1回
2018年5月1日
No.330



3・18「第17回茨城県高齢者大会in水戸」=茨城県総合福祉会館(記事P5)

第32回日本高齢者大会in熱海 サブスローガン決まる

「守ろう憲法 すべての世代の連帯で つくろう安心して住み続けられるまち」

4・9「高齢期運動推進事務局団体会議」での報告・協議決定事項について

日本高齢期運動連絡会

日本高齢期運動連絡会は4月9日午後、中野事務所で「4月度高齢期運動推進事務局団体会議」を開きました。報告・協議・決定事項については次の通りです。

熱海大会サブスローガンは「守ろう憲法 すべての世代の連帯で つくろう安心して住み続けられるまち」に決定！

1、新たな加入団体の報告がありました

日本高齢者生活協同組合連合会（4/1付）

2、事務局長代理について 日本高連事務局次長・第32回日本高齢者大会in熱海中央実行委員会事務局長の武市和彦氏を、日本高連事務局長代理とすることが確認されました

3、第27期日本高齢期運動連絡会総会（5/19）の諸議案について討論しました。4月末に各地域団体に送付します。

4、第32回日本高齢者大会in熱海の準備について

- ①参加アンケートの集約状況について 現在38都道府県のべ3490人です。引き続き集約を行います。
- ②企画委員会＝学習講座・分科会案の報告がありました。次回企画委員会は5/14で、総会に報告します。
- ③大会サブスローガンについては論議の結果、

上記に決定しました。

- ④大会予算では収益増加のために、参加のしよりの協賛広告を増やすこと、物品販売ではじいじばあばせんべい（紀ノ川製菓）、うどん（普賢）を5月から取り組みます。
- ⑤第一次チラシを4月中に作成します。

地域を重点に 高齢期要求実現を重視

3・1「東京高連第26回総会」に24団体42人

東京高齢期運動連絡会

東京高齢期運動連絡会は3月1日、第26回総会を開きました。

総会は地域の活動を重点に、高齢期要求の実現を重視する2018年度の方針を採択しました。参加は24団体42人。最近4回の総会では最高の参加者数でした。安心できる高齢期をめざす運動の切実さの表れです。忙しい仕事をぬって参加者を送っていただいた各団体の皆さんに心から感謝します。

総会に先だつて、立教大学コミュニティ福

祉学部教授の芝田英昭先生の「『地域共生社会』の批判的検討」の講演で学習しました。

討論では、革新自治体を作っていく展望をもつ意義、高齢者大会in東京後に渋谷に生まれた高齢期連絡会の活動、自治体への要求運動の結果の評価と地域の交流の必要性について発言がありました。

小嶋会長にかわつて年金者組合東京都本部の執行委員長 杉山文一さんが新しい会長に選ばれました。

3.2「沖縄と連帯し 安倍9条改憲を許さない三多摩のつどい」

三多摩高齢期運動連絡会



3月2日東京小金井で「沖縄と連帯し、安倍9条改憲を許さない三多摩のつどい」が開催されました。

集会は、昨年台風で中止となった「第31回

日本高齢者大会in沖縄」の精神を引き継ぐ取り組みとして計画されました。

三多摩高齢期運動連絡会・三多摩労連・民医連三多摩ブロック・三多摩健康友の会・北多摩中央医療生協・三多摩革新懇が主催。東京高連が協賛しました。

沖縄出身のファミリーバンド「カーミーズ」がオープニングに演奏。沖縄大会全体会講師の予定だった琉球新報の島洋子さんが「沖縄でいまなにが起きているか」と題して講演。名護市長選挙の状況をリアルに報告。沖縄をめぐる二つの神話「沖縄は基地で食ってる」「米軍基地は沖縄に置くしかない」といった

間違った見方の誤りを、具体的資料にもとづいて解き明かし、沖縄の現実からこの憲法の優れた力をしっかりとくみ取ろうと訴えました。

沖縄県民と連帯する府中の会、横田基地の撤去を求める西多摩の会、安倍9条改憲NO！三多摩市民アクション、三多摩労連の4団体がスピーチしました。

「3000万署名の飛躍とひろがる共同の力で改憲発議を阻止しよう!!のアピール」が採択されました。

569席のホールは埋まり、会場に入れなかった約30名の参加者はロビーのモニターで集会の様子を視聴しました。

「東京高連ニュース 再刊第23号」から

辺野古新基地建設反対全国座り込み集会に参加して 山形県高齢期運動連絡会沖縄ツアー

山形県高齢期運動連絡会は、第31回日本高齢者大会が沖縄で開催が予定され、山形から51名の代表団が組織されました。その取り組みの中で沖縄に連帯し辺野古に新基地をつくらせない支援募金も取り組んでいました。しかし残念ながら台風による大会中止の事態になり、改めて沖縄訪問を全国の辺野古新基地反対の集会に合わせ3月2日～5日企画を行いました。

出発の2日朝6時庄内地方は猛列な地吹雪で、藤島の榎本さん(年金者組合)を迎えに行く道路が見えない状況ですスーパー農道と月山道を通ってやっとの思いで物産館に到着しました。

ここで山形・内陸の参加者達と合流し、バスで仙台空港へ・3時間のフライトで沖縄の那覇空港に到着しました。

氷点下の世界から25℃の沖縄へ、着るものの調整と体の管理が大変でした。

ついた日は快晴で首里城を見学し歴史的遺産を垣間見る事が出来ました。次の日は一転まれにみる豪雨の中・普天間基地を一望しながら、古謝さんのオルグガイドのお話を聞きながら「全国から辺野古新基地建設をさせない」集会に山形県代表団22名が参加しました。

冒頭に山形の参加者が紹介され、団長の松浦猛将さんが連帯と決意表明を行い、高齢期運動連絡会から100万円の支援募金を共同代表の稲嶺進前名護市長に手渡し、全国から辺野古基地反対の座り込みの250人を超える参加者から熱列な歓迎と熱い連帯の熱気に包まれま



辺野古新基地建設反対全国集会—山形県代表団22名



那覇—瀬長亀次郎 不屈館
ビデオを聞き、館長の内村さんの話を聞く

した。

集会では、稲嶺進前市長から選挙結果の報告と辺野古に新基地を絶対に作らせない決意が述べられ大きな共感の拍手に包まれ、辺野古に新基地をつくらせない運動の熱気は沖縄の豪雨をも押し返す迫力を感じました。

また、瀬長亀次郎の不屈館を訪問し沖縄の闘いの歴史を深く学んでオール沖縄だけでなくオール日本の全国隅々で「軍事基地をつくらせない運動」を広げ、平和祈念館やひめゆりの塔資料館など、戦争の悲惨さを学ぶにつけ、二度と戦争を起こしてはならないという

憲法第9条第2項を守る粘り強い3,000万署名運動を推し進めねばと決意してきました。

今回の沖縄ツアーで、22名の仲間と一緒に交流を深められ、美味しい料理と沖縄の文化に触れ、龍泉、くら、王朝の泡盛の香を存分に楽しませて頂き英気を養い明日からの運動を自分の出来るところから進めていく事を確認しながら沖縄のツアーを終わる事が出来ました。

鶴岡・田川高齢期運動連絡会
事務局長 菅原 丈男

地域のささえあいから広がる共生社会めざして 3・17「第10回鶴岡・田川高齢者集会」に120人参加

鶴岡・田川いきいき輝く高齢期運動実行委員（山形県）

3月17日庄内地方は小雪が舞う中、高齢者福祉の充実を求め、人権と尊厳を守り、まちから地域からの連帯で一人ぼっちの高齢者をなくし、安心して住み暮らす事が出来る地域づくりをめざし、東北公益文科大学鶴岡キャンパスにおいて高齢者集会を開催しました。



男性合唱団デザミ・アンティム
指揮者 青柳修先生 一時計台の鐘、希望の島、
最上川舟歌熱唱

オープニングに地元の男声合唱団デザミ・アンティムのアカペラで3曲を歌い、最後に「手のひらに太陽に」を全員で大合唱し開会行事に入りました。

主催者あいさつで鶴岡・田川いきいき輝く高齢期運動吉野文夫会長は、『まちから村からの連帯でひとりぼっちの高齢者をなくそう』と鶴岡・田川地区においても、参加者の皆さ



東北公益文科大学武田真理子教授



シンポジスト
石井さん、小林さん、結城さん、吉野さん

んと各団体の協力で10回目を迎える事ができました。

高齢者の命と健康に責任を持って、いつまでも住み続けられる地域づくりのため、創意



講演に聞き入る参加者—東北公益文科大学鶴岡キャンパス講堂

工夫を凝らし運動を進めていきたいと本日の集会の目的を述べ、記念講演に入りました。

記念講演では、「地域のささえあいから広がる共生社会」と題して東北公益文科大学武田真理子教授より講演をいただきました。

武田先生の講演の基調は、住民目線から考える福祉まちづくりの視点で地域コミュニティの課題を明らかにしたお話でした。

厚生労働省の「地域共生社会」→自助・互助・共助の強調は大きな矛盾をはらんでいるのではないかと指摘されました。まちづくりの意味は市民主体・総合性、画一性から個性・多様性にそして【やわらかいネットワーク】の必要性を訴えられ、地域における基本活動として①地域問題の把握②学習③広報④協議⑤人材育成⑥地域活動計画の策定と進行管理の重要性を強調されました。

武田先生の記念講演を受けて、地域での取り組み・支え合い・いきがい活動がどう取り組まれているか、シンポジウムで武田先生をコーディネーターに深められました。

鶴岡市長寿介護課の石井美喜保健師が行政として推進しているいきいき百歳体操からはじめる「地域づくり」について報告し、医療生協第5学区支部(小学校区)の高齢者の集う場所「なごみの家」の活動について3年間の取り組みを運営委員の小林千賀枝さんが報告、社会福祉法人山形虹の会事務局長の結城弥生さんからは、地域住民の願いであった特別養護老人ホームをつくりたいという声を形に1億6千万の寄付を集め社会福祉法人を立ち上げ、老人保健施設と小規模特養を運営していること、訪問入浴も実施して地域から大変喜ばれている事などが報告されました。

福祉生協の健康教室、ゆうゆう百歳塾吉野文夫塾長からは、健康づくりの指針、前期高齢者と後期高齢者の役割、地域の中で果たさなければならない役割、八十路—生きてきた知恵と技の何をどう伝えるべきか訴えられ、身につまされる思いで聞き入っていました。

第10回鶴岡・田川高齢者集会は地域における新たなささえあい活動を求め、住民と行政・協同組合が協働による地域福祉活動の在り方を深める集会になりました。

戦争NO！平和・人権・民主主義を守ろう

3・18「第17回茨城県高齢者大会」に280人参加

茨城県高齢期運動連絡会

第17回茨城県高齢者大会は、梅の花が最も見頃となる3月18日、茨城県総合福祉会館を借り切って開催されました。

参加者は280人でした。

今大会のサブスローガンは、安倍政権による憲法9条改定を許さないたたかいが正念場を迎えている中で、「戦争NO！平和・人権・民主主義を守ろう」としました。

分科会は、午前10時から12時まで5つの分科会に分かれ開かれました。講師は地元

年金者組合、翠清福祉会、農民連、高齢期考える会の人たちが勤めました。唯一原発問題で、南相馬市小高区から「福島は今」の報告がありました。全会場とも50～70人の参加で、質問、意見が続出し時間が足りないとの意見が寄せられました。

第一分科会は、文化交流～笑って元気に拍手して（笑いヨガ、大正琴、リフォームファッションショー、ダンス、民謡、腹話術など）

第二分科会は、たまり場・サロン・シニア

塾交流研究会

第三分科会は、介護予防・認知症予防～悪化しないうちの手立て

第四分科会は、正しい制度の理解（医療・介護・年金・生保制度はこの3年間どう変わってきたか）

第五分科会は、福島は今～ 東海第2原発廃炉に向けて（南相馬市の現状とふるさと復旧、今年は東海第2原発再稼動を止める勝負の年）

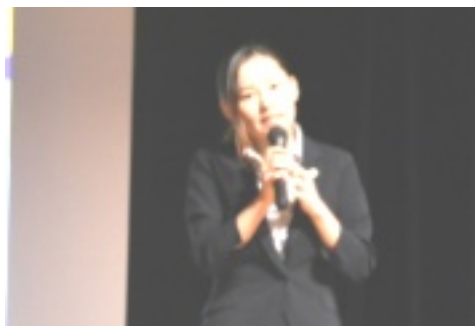
全体会は、午後開催されました。

主催者を代表して、田中重博さん（茨城大学名誉教授）から、「全世代型社会保障」のもとに、高齢者と現役世代の世代間分断を図っていること、「自助・共助」を基本として家族や地域社会に担わしている政府の政策にしっかり対峙することが訴えられました。そして憲法改憲阻止3000万署名、ヒバクシャ署名、東海原発廃炉の県民運動に、高齢者が先頭に立って奮闘しようと呼びかけました。

記念講演者として、厚木米軍基地の近くで育ち、和光高校在学中「高校生平和ゼミナール」を中心に活動し、世界の子どもの平和像をつくる会や東京高校生平和のつどいの実行委員長を務め、日本国憲法の本質である平和

と民主主義を実現し、困っている人のために法律を使いたいと決意し弁護士になった白神

優理子さん（八王子合同法律事務所）を迎えました。演題は「憲法が輝くとき個人の権限と生きる権利」でした。



講演は、私の生き方を180度変えた3つの出会い①戦争体験者の方との出会い、②日本国憲法との出会い、③声を上げる大人との出会いから始まり、順次安倍首相「9条改憲」によって日本はどうなるのか、自民党改憲草案から見る自民党が求める未来、改憲に向けた安倍政権のハードル、そして職業や立場の違いを超えた運動の展開、3000万署名を集めて、改憲発議を断念させることなどが強調されました。

高齢者運転免許証返納アンケート 取り組みを通して見えたもの 宮崎県高齢期運動連絡会

1. はじめに

日本は急速に高齢化が進み、2016年10月1日現在、65歳以上の人口は3,459万人となり、総人口に占める割合（高齢化率）は27.3%と、約4人に1人は高齢者です。2016年末の運転免許保有者数は約8,221万人で、2015年末に比べ約6万人増加しました。このうち、75歳以上の免許保有者数は約513万人（75歳以上の人口の約3人に1人）で、2015年末に比べ約35万人増加し、今後も増加すると予測されます。

そこで、宮崎医療生協が加盟する宮崎県高齢期運動連絡会は、8つの団体と昨年8月から

「高齢者運転免許証返納アンケート」に取り組み、2月末まで約300名からアンケートの返事が届きました。

2. 高齢者運転による事故の特徴

高齢者は加齢により、動体視力の低下や複数の情報を同時に処理することが苦手になったり、瞬時に判断する力が低下したりするなど、身体機能の変化によりハンドルやブレーキ操作に遅れがでるなどの特性が見られます。また、加齢に伴う認知機能の低下も懸念され、2016年に運転免許証の更新の際に認知機能検

査を受けた75歳以上の高齢者約166万人のうち、約5.1万人は認知機能が低下し認知症の恐れがあると判定されました。

3. 宮崎県では

宮崎県の高齢者人口は32万9,430人（2016年10月1日現在）で、高齢化率30.3%（全国平均は26.7%）です。高齢者の運転免許保有者数は20万2,404人（2016年12月28日現在）で全体保有者の26.6%、10年前の約1.5倍に増加しました。一方で高齢者による交通事故では加害事故（人身事故）は2007年の1,522件が2016年の10年間で2,086件と、約1.4倍に増加しています。2015年10月28日に発生した高齢者による交通事故では、宮崎地裁は2018年1月19日「てんかんが原因とは言い切れない」として、過失運転致死傷を適用し懲役6年の実刑判決を言い渡しました。

4. アンケートの結果から見えたもの

宮崎県は、2008年4月1日から「高齢者運転免許証返納制度」を開始しました。返納に伴い、バス料金割引や飲食料金割引、温泉入浴料金割引、ホテルや旅館の宿泊料金割引、預貯金の金利優遇等のメリットはありますが、高齢者の生活圏（買い物や通院等）で不便性を感じている方もいました

アンケートでは、1) 何歳まで運転したいと考えていますか、2) 高齢になっても免許証を返納しない理由は何ですか、3) どのような状態になったら免許証を返納しようと思えますか、など9項目の質問に答えていただきました。

1) については「80歳～85歳」が87名、「75歳

～79歳」が67名と全体の半数以上でした。2)（複数回答）については「買い物が行けなくなる」が145名、「通院ができなくなる」が114名、「体調体力面で問題なく運転できる」が103名、「旅行や趣味などの外出ができなくなる」が93名と、全体の約86%を占めました。3)

（複数回答）については「身体的な衰えを感じたとき」が165名、「ある程度の年齢に達したら」が94名、「身体的な衰えを他人から指摘されたとき」が70名の順でした。

アンケートの中から国や自治体への要望として「免許証返納者に行政は、既存の返納メリット制度の他に新たにタクシーの割引券などのサービスをして欲しい」、「自分たちの足になるような交通手段が自分たちの町にできれば返納しやすい」、「交通手段がそれなりに整わないと返納後の生活は難しい。気軽に出かけることが減り、生活が不安」、「高齢者が支障なく生活を維持していくことこそが必要です。国や行政は抜本的な視点で生活環境改善に取り組むことが重要です」などの声をいただきました。

アンケートを通して、高齢者の免許証返納を困難にしている原因を把握することができました。宮崎県高齢期運動連絡会では、アンケートの結果をもとに、返納後も高齢者がこれまでと変わらぬ生活水準を保つために、運転免許証の自主返納がしやすくなるような生活環境の改善を要望する請願を議会に行う計画です。

（宮崎医療生協組織部 田中裕人）

（一社）日本高齢期運動サポートセンター

冊子 「賃金と社会保障」 特集◎高齢者人権条約の実現を！（旬報社）
（全66ページ）

特別価格 1冊 1500円（定価2,160円）

資料も豊富で国連のとりくみを系統的に理解できる内容です。

（資料7）「高齢者による全ての人権の享受に関する独立専門官の報告書」（訳：高田清江）は、日本で初めて翻訳され「第2回マドリッド国際行動計画」以降の各国のとりくみ状況を国連が調査し分析したもので、今後の活動に役立つ内容です。

お申し込みは日本高齢期運動サポートセンターまで

Tel/fax 03-3384-6654 mail kourei-s.c@nifty.com

希望部数・送付先を明記してください



後期高齢者医療1.2%増・4回連続値上げ

後期高齢者医療制度の2018～19年度の保険料が1人当たり平均で月5857円となり、16～17年度実績に比べ1.2%（月72円）増えることが、4月1日までに厚生労働省の発表でわかりました。2010年度から4回連続の値上げで、10～11年度（月5249円）比でも608円の値上げです。今回の値上げは、広域連合が1人当たりの医療給付費（全国平均）を16～17年度比8千円増の年87万3千円になると見込んだことや、安倍政権が低所得者や元被扶養者への特例軽減措置を段階的に縮小廃止していることが主な原因です。介護保険料の引き上げと共に、高齢者の家計を直撃する負担増です。

自民党内で後期高齢者医療2割負担を提案

自民党の財政再建特命委員会の小委員会（小淵優子委員長）は3月29日、後期高齢者の自己負担を2割に引き上げることで早急に結論を得よう特命委に提案しました。特命委員会では政府が6月に策定する「財政健全化計画」への反映をめざしています。

都道府県	保険料額	前期比増減額
北海道	5,471	118
青森	3,475	171
岩手	3,903	200
宮城	4,907	▲20
秋田	3,271	78
山形	3,867	70
福島	4,314	181
茨城	5,103	399
栃木	4,968	201
群馬	4,979	138
埼玉	6,168	▲11
千葉	6,050	73
東京	8,094	▲13
神奈川	7,418	▲233
新潟	3,832	266
富山	5,186	214
石川	5,487	199
福井	5,023	409
山梨	4,493	252
長野	4,783	113
岐阜	4,990	▲42
静岡	5,414	186
愛知	6,905	▲227
三重	5,091	▲72
滋賀	5,567	▲90
京都	6,327	77
大阪	6,752	▲31
兵庫	6,674	33
奈良	6,210	92
和歌山	4,554	187
鳥取	4,282	192
島根	4,229	▲75
岡山	5,373	▲221
広島	5,889	96
山口	5,975	74
徳島	4,951	39
香川	5,552	243
愛媛	4,616	78
高知	5,368	154
福岡	6,573	145
佐賀	5,013	182
長崎	4,524	100
熊本	4,482	188
大分	4,500	12
宮崎	4,231	126
鹿児島	4,320	71
沖縄	5,644	324
全国平均	5,857	72

（注）保険料は月額、単位円、▲はマイナス

※表18-19年度の都道府県平均保険 4/2付赤旗より

事務局より

《 重要なお知らせ 》

◇第32回日本高齢者大会in熱海は会場と宿泊先が同一となります。

各県でツアーを組む場合も、個人・小グループで参加する場合も、11月25日（日）の宿泊は必ず中央実行委員会の指定する「ニューフジヤホテル」「ホテル大野屋」にお願いします。

同ホテル内で全体会・講座分科会会場（夜の企画含む）を確保するうえで、貸し切りが条件となります。一定数以下だと会場が確保できなくなる恐れがあります。

宿泊料金は1泊2食（税・サ込）13000円を予定しています。参加宿泊の受付は勤労者レクリエーションセンターで行います。詳細は5月19日の総会で決定後お知らせいたします。

◇第32回日本高齢者大会in熱海中央実行委員会第2回総会

ならびに日本高齢期運動連絡会総会開催のお知らせ

日時：2018年5月19日（土）午前11時から午後4時（予定）

場所：東京都生協連会館（3階会議室） 中野区中央5-41-18